

第4学年社会科 学習指導案

世田谷区立経堂小学校 平成29年度校内研究を基に作成

世田谷区立経堂小学校 吉岡 泰志

1 小単元名 伝染病に立ち向かった北里柴三郎

2 小単元の目標

○伝染病の治療と予防に尽力した北里柴三郎の働きについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、調査したり、地図などの資料で調べたりして、年表にまとめ、北里柴三郎が様々な苦心や努力を重ね、医療を通して当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、先人の働きと現代の地域の人々の健康的な生活を関連付け、地域社会の発展について考えようとする態度を養う

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 伝染病の流行や東京の人々の願いなどについて、調査したり地図や年表などの資料を活用したりして調べて、必要な情報を集め、読み取り、北里柴三郎の働きについて理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、北里柴三郎は様々な苦心や努力によって伝染病の治療法の開発や予防法の確立に努め、当時の生活の向上に大きく貢献したことを理解している。	① 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見出し、北里柴三郎の業績について考え、表現している。 ② 北里柴三郎の業績と、地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて先人の働きや願いを考え、適切に表現している。	① 北里柴三郎の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 先人の働きと、現代の地域の人々の生活とを関連付け、東京都民の一人として、これからの地域社会の発展について考えようとしている。

4 小単元について

本小単元は児童が「歴史と人々の生活」について学ぶ単元である、そこで、つかむ段階で年表の一部を概観し、伝染病が大きな社会問題となっていた明治時代の様子や北里柴三郎の主な業績を時間軸でつかませる。調べる段階では北里柴三郎が様々な困難を乗り越えて伝染病の治療と予防の道を切り拓いたことについて、具体的な事実を基に調べる。まとめる段階では、北里柴三郎の働きによって当時の人々の生活が向上したことが、現在の私たちの健康な生活にも結び付いていることに気付かせ、これからの地域社会の発展について考えさせたい。

5 指導計画 (全10時間)

学習過程	ねらい	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料※指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
つかむ (3時間)	①明治時代にはコレラの流行により多くの人の命が奪われたことや、治療法も確立していなかったことについて調べる。	<p>○明治時代に描かれた錦絵を見て気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虎のような化け物が描いてある。 ・人々が戦っているようだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">明治時代の東京の人々はどのようなことに苦しんでいたのだろう。</div> <p>○資料を基に明治時代に流行したコレラについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレラが流行して、たくさんの人が亡くなっている。 ・当時はコレラになる原因が分からず、神様をお願いするしかなかった。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">明治時代の東京ではコレラが流行し、多くの人の命が奪われていたが、原因や治療法も分からず人々は苦しんでいた。</div> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□絵「虎狼狸獣」(1877年)</p> <p>□絵「虎列刺退治」(1886年)</p> <p>※何を化け物に例えていたのかを予想させながらめあてをつかませる。</p> <p>□文章「コレラの説明」</p> <p>□グラフ「東京のコレラの患者数,死者数」</p> <p>□文章「明治時代の伝染病の様子や当時の人々がコレラになるとしていたこと。」</p> <p>※資料から読み取ったことを関連付けて、当時の社会の様子を考えさせる。</p> <p>◇当時の世の中の課題に着目して絵やグラフなどの資料を読み取っている。</p> <p style="text-align: right;">【知①】(ノート)</p>
	②北里の業績とコレラによる患者数や死者数の変化の様子とを比べることを通して、北里の働きに関心を持ち、学習問題をつくることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">資料を読み取り学習問題をつくろう。</div> <p>○学生時代に発表した北里柴三郎の考えについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレラ(伝染病)は防ぐことが一番大切であると言っている。 <p>○医道論の発表から25年後のコレラ患者の数を知り、気付いたことを交流し、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレラの患者数が0人になっている。 ・コレラが予防できるようになったのではないかな。 ・北里柴三郎が25年間の間に何かしたのではないかな。 	<p>□文章「医道論とその後の東京」</p> <p>□写真「北里柴三郎」</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>学習問題</p> <p>北里柴三郎は、伝染病から人々を救うためにどのようなことをしたのだろう。</p> </div>		
		<p>○学習問題について予想を書く。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>◇北里柴三郎の働きに関心を持ち学習問題を考えている。</p> <p style="text-align: right;">【思①】(ノート)</p>

	<p>③学習問題についての予想を基に学習計画を立てる。</p>	<p>学習問題についての予想を基に学習計画を立てよう。</p> <p>○前時で出た予想を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北里柴三郎はドイツに留学して何かすごいことをしたと思う。 ・伝染病の研究所や病院を作って、そこで薬を作ったり、病気の人を治療したりしたと思う。 ・本を書いているから、病気の治し方を人々に教えたのだと思う。 <p>○学習計画にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北里柴三郎はドイツでどのような研究をしたのか。 ・北里柴三郎は日本に帰ってきてどのようなことをしたのか。 ・学習問題について考える。 ・わたしたちの生活とのつながりについて考える。 <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>※年表と関連付けながら予想を発表させることで、調べることや学習計画を立てられるようにする。</p> <p>◇学習問題についての予想を基に学習計画を立てている。 【主①】(ノート)</p>
<p>調べる(5時間)</p>	<p>④ドイツ留学時に北里がコッホの下でどのような業績を挙げたのか調べる。</p>	<p>ドイツに留学した北里柴三郎はどのようなことをしたのだろう。</p> <p>○ドイツの位置を確認し、コッホについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツはヨーロッパの国で、伝染病の研究が進んでいた。 ・コッホは世界で初めてコレラ菌を発見した世界で有名な研究者だった。 <p>○資料を基に、北里柴三郎が研究したことについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレラ菌の性質について調べ、人に移る仕組みや、消毒の方法を見付けた。 ・苦心の末、破傷風菌を取り出し、破傷風菌の性質を明らかにした。 ・破傷風で苦しむ人々を治療する方法も発見した。 <p>留学した北里柴三郎はコッホの下で熱心に研究を行い、コレラ菌が人に移る仕組みや、消毒の方法を発見した。また、苦心の末、世界で初めて破傷風の治療にも成功して北里の名前は世界中に知れ渡った。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>□地図帳「世界地図」</p> <p>□写真「コッホ」</p> <p>※伝染病の研究で当時世界トップレベル研究を行っていたコッホの下で学んだことから、北里が成し遂げる功績について考えさせるようにする。</p> <p>□文章「北里柴三郎のドイツでの研究」</p> <p>◇北里柴三郎のドイツ留学中の業績について、必要な情報を集め、読み取っている。 【知①】(ノート)</p>

<p>⑤ 北里は帰国後に苦労しながらも、その思いに共感した様々な人々の協力を受けて伝染病研究所をつくり、東京で伝染病の研究を始めたことについて調べる。 (本時)</p>	<p>○ドイツから帰国後の北里柴三郎の思いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京で研究ができず、すごく残念だ。 ・人々を救うために東京に帰って来たのに、とてもくやしい。 <p>北里柴三郎はどのようにして伝染病研究所をつくることができたのだろう。</p> <p>○めあてについて予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人やお金を集めてつくった。 <p>○伝染病研究所設立について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福澤諭吉という人が土地を用意してくれた。 ・さらにいろいろな人が、北里柴三郎が研究できるように協力してくれた。 <p>○調べたことを基に、めあてについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染病に苦しむ人々を救うために研究をしたいという北里柴三郎の思いに、福澤諭吉が心を動かされて土地を提供したから。 ・伝染病に苦しんでいた東京の人々が協力した。 <p>北里柴三郎は、伝染病に苦しむ人々を救いたいという思いを福澤諭吉に伝え、同じ思いをもった人々の協力によって、伝染病研究所をつくることができた。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>※北里柴三郎が伝染病に苦しむ人々のために研究を進めなくてはいけないと、苦悩していたことを児童が考えられるようにする。</p> <p>□資料「伝染病研究所設立までの経緯と関わった人々について」</p> <p>※福澤諭吉達がどんな思いで北里柴三郎に共感し、協力したのかを、資料を基に考えられるようにする。</p> <p>※考えを交流する場面を設定し、話し合い活動に生かす。</p> <p>※話し合いを踏まえて、自分の考えを友達と比較したり、関連付けたりして考えられるようにする。</p> <p>◇北里柴三郎は帰国後に苦労しながらも、その思いに共感した様々な人々の協力を受けて伝染病研究所をつくり、東京で伝染病の研究を始めたことについて理解する。 【知①】(発言・ノート)</p>
<p>⑥⑦ 北里が伝染病の研究成果を基に様々な薬の製造を行い、伝染病の予防や治療に役立てるとともに、研究所や大学を作り多くの優秀な弟子を育てたことについて調べる。</p>	<p>北里柴三郎は伝染病研究所でどのようなことをしたのだろう。</p> <p>○資料を基に北里柴三郎の研究の成果について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な薬(ワクチン)を作り出した。 ・医学にかかわる研究所や大学を作った。 ・研究を通して多くの弟子を育て、弟子たちも医療の発展に貢献した。 <p>北里柴三郎は伝染病の研究を基に、伝染病を予防したり、治療したりするための薬の製造を進めた。また、研究所や大学を作って弟子の育成にも力を入れ、多くの研究者を育てた。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>□図「北里柴三郎の下で開発された薬」</p> <p>□写真「野口英世」</p> <p>□写真「慶応大学医学部」</p> <p>◇北里柴三郎が伝染病の研究成果を基に様々な薬の製造を行い、伝染病の予防や治療に役立てるとともに、研究所や大学をつくり多くの優秀な弟子を育てたことについて、必要な情報を集め、読み取っている。 【知②】(ノート)</p>

	<p>⑦ 北里が伝染病予防法の制定に関わり、本を出版したり、講演会を開いたりしたことを調べ、人々が参加できる公衆衛生の取組を広げたことについて理解する。</p>	<p>北里柴三郎はなぜ、法律作りや講演、本の出版をしたのだろうか。</p> <p>○伝染病予防法について調べる。 ・伝染病を予防したり、拡大を防いだりするためのきまりがまとめてある。</p> <p>○北里柴三郎が書いた本や講演の内容について調べる。 ・伝染病の原因について教え、伝染病を予防したり、広がるのを防いだりするために人々ができることを紹介した。</p> <p>北里柴三郎は、伝染病を予防したり、拡大を防いだりするための法律を作った。また、本や講演会を通して、人々が参加できる公衆衛生の取組を広げた。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>□文章「伝染病予防法」 □文章「コレラの予防のために本を書き、講演をした北里柴三郎」</p> <p>◇北里柴三郎が伝染病予防法の制定に関わり、本を出版したり、講演会を開いたりしたことを調べ、人々が参加できる公衆衛生の取組を広げたことについて理解している。 【知②】(ノート)</p>
<p>まとめる(2時間)</p>	<p>⑨ 調べてきたことを整理し、学習問題に対する考えをまとめる。</p>	<p>これまでの学習を整理し、学習問題についての考えをまとめよう。</p> <p>○北里柴三郎の働き年表を振り返り、その働きを整理する。 ・伝染病になる原因を見付けた。 ・伝染病を予防したり治療したりするための薬を作った。 ・人々を伝染病から守るための法律を作ったり本を書いたりして、伝染病を予防したり広がるのを防いだりするための取組を進めた。 ・研究所や大学を作って、多くの弟子を育てた。</p> <p>○キーワードを基に、学習問題についての考えをまとめる。</p> <p>北里柴三郎は、苦労を重ねながらコレラを始めとする伝染病の研究を続け、薬を作ったり、法律を作ったりして、伝染病の予防や治療を進めた。また、本や講演会を通して、人々が自分たちで取り組む公衆衛生の大切さを広め、伝染病から人々を救った。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>※何によって大きく人々と伝染病との関わりが変化したのかに目を向けて考えをまとめるようにする。</p> <p>◇北里柴三郎の働きと伝染病に苦しんでいた人々の生活の向上を関連付けて考え、表現している。 【思②】(ノート)</p>
	<p>⑩ 北里柴三郎の働きと私たちの生活とのつながりについて考える。</p>	<p>北里柴三郎の働きは、私たちの現在の生活とどのようにつながっているのだろうか。</p> <p>○資料を基に、私たちの生活とのつながりを考える。 ・最近では伝染病で亡くなる人はほとんどいなくなっている。 ・柴三郎が作った研究所が今も残っていて、ノーベル賞受賞者を出している。</p>	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>□グラフ「近年の伝染病(感染症)の患者数、死亡者数の推移」</p> <p>□写真「北里研究所」 □写真「大村智」</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・私達も小さい頃から予防接種を受けているから病気にかからない。 ・柴三郎が人々に伝えていた,病気の原因や予防法は今では当たり前になっている。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>北里柴三郎が考えた伝染病の予防と治療の考え方は,その後の医学発展の中心となって今につながり,私たちの健康な暮らしに結び付いている。</p> </div> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>□表 「現在受ける予防接種の種類や時期」</p> <p>◇北里柴三郎の働きと,自分たちの生活とのつながりについて考えようとしている。 【主②】(ノート)</p>
--	---	---

6 本時の学習 (5/10)

① ねらい

- 北里柴三郎は帰国後に苦勞しながらも、その思いに共感した様々な人々の協力を受けて伝染病研究所を作り、東京で伝染病の研究を始めたことについて理解する。

② 本時の展開

学習過程	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料 ※指導上の留意点 ◇評価規準
つかむ	<p>○ドイツから帰国後の北里柴三郎の思いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京で研究ができず、すごく残念だ。 ・人々を救うために東京に帰って来たのに、くやしい。 <p>○伝染病研究所がつくられている事実を年表で確認し、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>北里柴三郎はどのようにして伝染病研究所をつくることができたのだろう。</p> </div> <p>○めあてについて予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人やお金を集めてつくった。 ・伝染病に苦しんでいた東京の人々が協力した。 	<p>□年表「北里柴三郎の働き」</p> <p>※北里柴三郎が伝染病に苦しむ人々のために研究を進めなくてはいけないと、苦悩していたことを児童が考えられるよう</p>
調べる	<p>○伝染病研究所設立について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福澤諭吉という人が土地を用意してくれた。 ・さらにいろいろな人が、北里柴三郎が研究できるように協力してくれた。 <p>○調べたことを基に、めあてについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界のキタサト」と言われた北里柴三郎の力を人々のために役立てるべきだと考えた人々が協力したから。 ・人々を救うために研究をしたいという北里柴三郎の思いに、福澤諭吉が心を動かされて土地を提供したから。 ・伝染病の苦しみを福澤諭吉達が知っていたから、協力したのだと思う。 	<p>□資料「伝染病研究所設立までに関わった人々」</p> <p>※資料の中から大切な事柄に印を付けながら、調べる。</p> <p>※福澤諭吉達がどんな思いで北里柴三郎に共感し、協力したのかを、資料を基に考えられるようにする。</p> <p>※考えを交流する場面を設定し、話し合い活動に生かす。</p>
まとめる	<p>○話し合いを基に、本時のめあてについて考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>北里柴三郎は、伝染病に苦しむ人々を救いたいという思いを福澤諭吉に伝え、同じ思いをもった人々の協力によって、伝染病研究所をつくることができた。</p> </div> <p>○今日の学習から、学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北里柴三郎は大変な思いをしていたけれど、あきらめずに福澤諭吉達と協力して伝染病研究所をつくることができたのはすごいと思う。 	<p>※話し合いを基に、自分の考えを友達と比較したり、関連付けたりして考えるようにする。</p> <p>◇北里柴三郎は帰国後に苦勞しながらも、その思いに共感した様々な人々の協力を受けて伝染病研究所を作り、東京で伝染病の研究を始めたことについて理解する。</p> <p style="text-align: right;">【知①】(発言・ノート)</p>

③板書計画案

10/30(月)

学習問題
北里柴三郎は、伝染病から人々を救うためにどのようなことをしたのだろう。

めあて
北里柴三郎は、どのようにして伝染病研究所をつくることができたのだろう。

予想

- ・研究をしたかったから、自分でつくったのではないかと前回、「どうすることもできなかった。」と書いてあった？
- ・人やお金を集めてつくった。
- ・伝染病に苦しむ、東京の人々が協力した？

調べる

研究をつかって、伝染病に苦しむ人々を救いたい!

土地と建物を用意した。

柴三郎の力は人々のために役立てるべきだ!

伝染病研究所が開かれた!

1 北里柴三郎

2 福澤諭吉

協力

協力

お金を出した。

人々

まとめ

北里柴三郎は、伝染病に苦しむ人々を救いたいという思いを福澤諭吉に伝え、同じ思いをもった人々の協力によって伝染病研究所をつくることができた。

7 指導の経過

第1時 明治時代の東京の人々は、どのようなことに苦しんでいたのだろう。



4 東京府(現在の東京都)でのコレラのかん者数と死者数

西暦	元号	かん者数	死者数	かん者数(人)	死者数(人)
1880	明治13年			95	43
1881	明治14年			55	34
1882	明治15年			7077	6536
1883	明治16年			51	27
1884	明治17年			66	34
1885	明治18年			247	140
1886	明治19年			12262	9662
1887	明治20年			81	45
1888	明治21年			62	37
1889	明治22年			36	17
1890	明治23年			4077	3307

〈分かったこと〉

- ・ 虎の化け物はコレラという恐ろしい病気をイメージして描かれたということが分かった。
- ・ 明治時代は東京の人がコレラにかかったり,亡くなったりしていたことが分かった。

明治時代に描かれたコレラについての風刺絵や東京府における患者数や死者数についてのグラフを示したことで,当時の東京の人々が原因も治療法も分らなかったコレラなどの伝染病によって苦しめられていたことについて,当時の人々の気持ちを考えながら調べることができた。

第2時 資料を読み取り,学習問題をつくろう。

10/23(月)

資料をもとに学習問題をつくろう。

北里柴三郎

1894年

コレラ菌の発見によって1901年にかん者0

医道論によってかん者0

治りやすさ予防法

人が治りやすさ予防法

コレラ菌の発見によって

おおいする病ではなくなった。

何万人ものが苦しむことがなくなった。

柴三郎が日本で発見して

正体が分かるものへ変わった。

〈調べたいこと〉

コレラ菌の発見

柴三郎がどのようにコレラ菌の研究

柴三郎の気持ち

柴三郎はコレラを治すためにどんなこと

学習問題

北里柴三郎は、人々を伝染病から救うため、どのようなことをしたのだろう。

4 東京府(現在の東京都)でのコレラのかん者数と死者数(1891年~1905年)

西暦	元号	かん者数	死者数	かん者数(人)	死者数(人)
1891	明治24年			333	225
1892	明治25年			71	37
1893	明治26年			29	15
1894	明治27年			24	13
1895	明治28年			3474	2597
1896	明治29年			318	234
1897	明治30年			114	57
1898	明治31年			75	27
1899	明治32年			24	22
1900	明治33年			0	0
1901	明治34年			0	0
1902	明治35年			0	0
1903	明治36年			0	0
1904	明治37年			0	0
1905	明治38年			0	0

《学習問題》

北里柴三郎は、伝染病から人々を救うためにどのようなことをしたのだろう。

コレラによって弟2人を失った北里柴三郎の生い立ちと,北里柴三郎が学生時代に医学についての考えをまとめた「医道論」を読み取り,東京でコレラに苦しむ人がいなくなったという事実を示したことで,児童の思考が北里柴三郎の働きへと焦点化していった。

第3時 学習問題についての予想を基に学習計画を立てよう。

10/23(月)

学習問題
北里柴三郎は人々を伝染病から救うため、どのようなことをしたのだろうか。
〈予想〉
コレラのカン者の様子を調べる
町のお医者さんに質問する
どうやって治せるか聞いたり、実験や研究をたくさんした。
医学の勉強もたくさんした。
他の研究者の結果も参考にして、いろいろ試して研究した。
いろいろな所に行き、研究した。
どのような所で流行しているかを調べる。
研究結果を全国に発表された。

ドイツの研究をしたい。
東洋のコレラに悩まれている人々
一生懸命研究 — ドイツに行き
コホトがわかってコレラ発見
コレラ以外の伝染病(チフス)の研究
コレラを発見し、講話をしたり本を出したりして人々に広める。
町のお医者さんにも広めて人々を
すくう。
研究所をつくる。
ワクチンをつくる。
腹ん義のく大学医学部をつくる。

学習計画

1. ドイツでの研究
2. 研究所での研究
3. 人々に講話や本で伝える
4. ワクチンなどの予防や治り
5. 学習問題のまとめ
6. 今日のつらがり

学習問題について予想し学習計画を立てる際は、根拠をもって考えるために北里柴三郎の働きについての年表を資料として提示した。すると、ドイツへの留学やワクチンの開発、本の出版や講演会など、調べる内容について具体的に見通しをもつことができた。

第4時 ドイツに留学した北里柴三郎はどのようなことをしたのだろうか。

10/25(水)

学習問題
北里柴三郎は人々を伝染病から救うため、どのようなことをしたのだろうか。
〈予想〉
有名な研究家と教わる
ロベルト・コホトの下で研究
世界で初めて、予防法や治り方法を発見
コレラの治り方法を発見
毎年何千、何百人もの人がコレラなどの伝染病に苦しんでいるからドイツへ。

分かったこと

ロベルト・コホトで伝染病の研究
コレラ菌の研究 — 様々な研究や開発
消毒したり予防したりする。
破傷風菌の研究
ロベルト・コホトにもでないと破傷風菌は人々を救いたい
研究を続け、治り方法を発見
「世界のキタサト」

なぜ北里柴三郎はドイツで研究をしようか
人々を救いたい。自分と同じようにやれたい。思いの強さを伝える。
長い期間でも、家族など人々のためにあきらめずに人々を救いたい。強く思った。
研究を続け、治り方法を発見。世界で初めて。家族のため

まとめ
北里柴三郎は人々を救いたい。強く思い、ドイツに留学してコホトの下にあり、コレラと破傷風菌などの伝染病の研究をして、治り方法を発見。世界のキタサト、とよんだ。

10/30(日)

世界のキタサト、とよんだ北里柴三郎はどのような思いをもったのだろうか。
〈予想〉
これから人々を苦しむ思いにさせたくない？
人々を安心させてよかった？

調べる

- 様々な国々へからでた。
- その国々を、ドイツで学ぶ。日本に人を救う。
- 伝染病を救いたい。思いが強い。

日本に研究所がなかなか、世界にはいろいろある。時にも必要なのは、人々を救いたい。思いの強さを伝える。

！ どの研究所を探せばいいだろう。日本で研究がしたい！！

人々を救いたい。強い思い。

あきらめずに。

日本の人にも研究のチャンスがあればいい！！

世界にはいろいろ研究所がある。

人々のために努力したい。思いの強さを伝える。

必要なのは、人々を救いたい。

自分の知恵で苦しんでいる人々を救いたい。

世界のキタサト、とよんだ北里柴三郎は、日本に研究所を創った。人々を救いたい。思いの強さを伝える。

第4時では、北里柴三郎が破傷風菌の研究を通して「世界のキタサト」と評価されるようになったことだけでなく、北里柴三郎が帰国を決意した際の思いや帰国後に研究所をすぐにつくることができなかつたことによる苦心も丁寧に扱ったことで、その思いに迫ることができた。

第5時 北里柴三郎はどのようにして伝染病研究所をつくることのできたのだろう。



前時の学習内容について振り返りをしたことで、北里柴三郎の苦心と年表上の「伝染病研究所設立」の事実とのギャップを基にめあてをつかむことができた。

学習問題
北里柴三郎は、人を悩ませる病気の原因を調べることに成功した。

人の悩ませる病気は、人のために苦しむ人々を救うために、研究しようとする。

北里柴三郎はどのようにして伝染病研究所をつくることのできたのだろう。

調べ

- 〇 助けてほしい人
- 〇 人を救いたい人
- 〇 協力
- 〇 苦しい思い
- 〇 自分のような思いをしてみたくない

器具

〇 協力
〇 苦しい思い
〇 自分のような思いをしてみたくない

〈予想〉
役所にお願、コッホに協力してもらい、自分の気持ちを分かってもらえる人に

伝染病研究所設立に至った経緯について、第2人を亡くした過去をもつ北里柴三郎の生い立ちや伝染病に苦しんでいた東京の人々の苦勞などの既習事項を基に、福沢諭吉をはじめとする研究所の設立に協力した人々の思いについて調べた。分かったことを相関図に整理することで、めあてについて考えることができた。



第6・7時 北里柴三郎は伝染病研究所でどのようなことをしたのだろう。

めあて
北里柴三郎は伝染病研究所でどのようなことをしたのだろう。

予想

- 〇 だれかと協力して、薬を作った
- 〇 本を書いたりした。(松本)福沢諭吉に
- 〇 考えた、研究したり、くり返した。
- 〇 コレラの原因(原因)を調べる
- 〇 伝染病予防法につなげる
- 〇 コレラの治り方を調べた。(官長)研究(失敗)
- 〇 伝染病の治り方や原因

調べ

- 〇 第3人は亡くされた研究者、だから一人でできた。
- 〇 1人で考えた治り方を生かした。
- 〇 伝染病に苦しむ人を治らせた。
- 〇 シフテリアの薬づくりからはじめ、多くの命を救った。
- 〇 さらに東洋の地でコレラの患者にはじめてコレラの薬を使った。→東京でコレラが治らなくなった。
- 〇 ワクチンを作った。
- 〇 予防と治り方と同時に対処した。大切に。(医連論)

まとめ
北里柴三郎は弟たちとともにシフテリアコレラの治り方からはじめ、伝染病を治らせた。予防したりする薬を次々作り、多くの伝染病に治り方や予防の道を開いた。

伝染病研究所をつくり、伝染病についての研究をすすめた北里柴三郎の働きに着目して予想を立てて調べた。予想は、当時の東京の人々が伝染病に苦しめられていたという既習事項を基に、病気の治療に関係する予想が多く出された。資料では、北里柴三郎が東京でジフテリアの治療を始めたのを皮切りに、コレラをはじめ、数多くの伝染病に治療の道を開いた事実を示した。すると児童は調べたことと予想とを比べながらまとめることができた。

第8時 北里柴三郎はなぜ、法律作りや講演、本の出版をしたのだろうか。

めあて
北里柴三郎はなぜ、法律作りや講演、本の出版をしたのだろうか。

予想
 () 本ならば、こう習会に採れないでも読める。
 () えらい人と会議をして法律を作った。
 () コレラについての本を出して、人々を救った。
 () みたわられた。
 () たく山のお医者さんや人々に「予防法」を作らせた。
 () 広い世にこの人に広めさせた。

調べ
 () 安全に治りついでにコレラを仕事に
 () かん者さんにとっても
 () 医者や研究者として
 () 自分が大きくなってから、本や法律作りによって、人々を助けようとした。
 () だれか読んでも伝染病の予防や治療の方法がわかるように。(経緯)色々。
 () だれか読んでも伝染病の予防や治療の方法がわかるように。(経緯)色々。
 () たれでも読んでも伝染病の予防や治療の方法がわかるように。(経緯)色々。
 () たれでも読んでも伝染病の予防や治療の方法がわかるように。(経緯)色々。

まとめ
 北里柴三郎はコレラの本の出版を通して伝染病についての知識や公衆衛生の取組を広めた。また伝染病予防法によって、伝染病を予防したり、早く治すためのルールを決めて多くの人を救った。

法律作りや講演会、本の出版など、年表から読み取った事実について、資料を基に北里柴三郎の働きを調べた。資料については、伝染病予防法制定に至った後藤新平との協力関係や講演会の要旨を教材化したことで、医道論で発表した公衆衛生の考えを実現していった北里柴三郎の働きや思いに迫ることができた。

第9時 これまでの学習を整理し、学習問題についての考えをまとめよう。

めあて
学習問題について考えよう。

学習問題
 () 明治のはじめのころの東京の人々の苦しみ
 () コレラなどの伝染病がはやっていた。
 () 予防や治療の方法もわからなかった。
 () 神社やお寺でよい知らせが来た。
 () だれも、コレラを治す方法がわからなかった。
 () 消毒の方法もわからない。
 () コレラの原因もわかっていなかった。
 () 日本にはまだコレラが流行していた。

まとめ
 () 自分を治すためにコレラを仕事に
 () 日本でコレラ菌を発見
 () トイソに留学して、ロバート・コホンのもとで
 () 伝染病の研究をして、コレラの予防や治療の方法を研究しようとした。
 () 新しい治療法を考え出した。→世界の予防
 () 日本の人を救いたい!という強い思いで、本を出版して研究を
 () を作り、所長として研究をはじめ、その後予防法の研究や治療法を研究して、伝染病についての知識を
 () 本や講演会、雑誌を通じて、人々の取組を人に広めた。
 () 伝染病を防ぐ法律を作った。
 () 東京でコレラに苦しむ人はいなくなった。
 () 伝染病の予防法がわかった。
 () 早く伝染病についての知識も広まった。
 () 予防法もわかった。
 () 治療法もわかった。
 () 公衆衛生の取組も広がった。
 () 安全な東京に!

第1時で提示した「虎列刺退治」の絵を再び提示して、東京の人々が伝染病に苦しんでいたことについて具体的に想起した。

東京の人々の抱えていた課題に対して、北里柴三郎が具体的にどのような働きをしたのかについて、話し合いながら整理した。

東京の人々のくらしがどのように変化したのかについてまとめた。

学習問題について考えるために、まず東京の人々が抱えていた、「伝染病に苦しんでいた。」という課題を想起させ、その後北里柴三郎の働きと東京の人々のくらしの変化について全体で共有した。このことで、獲得してきた具体的事実が整理され、個人で学習問題について考える際に役立った。

第10時 北里柴三郎の働きは、私たちの生活とどのようにつながっているのだろう。

柴三郎は、多くの人々に苦しみを味わってほしくない、人々を救いたいという思いがあり、当時「死の病」として恐れられていたコレラをはじめとした伝染病の研究をした。

「世界のキタサト」と呼ばれた柴三郎は福澤たちの助けによって、研究所をつくり、研究を続け、「世界三大研究所」と呼ばれる研究所にもなった。

教育にも力を注ぎ、伝染病研究の成果を人々に伝えた。

という、まとめを受けて...



私は、北里柴三郎の働きから、がんばっている人がいるからこそ、私たちは安心して暮らすことができるということを学びました。だから、その色々ががんばってくれている人たちに感謝して過ごしたいと思いました。

あと、自分が他の人の役に立てる時には、その人の役にちゃんと立てるようにしたいです。

私は、北里柴三郎の働きが今、コレラにかかる人がいなくなったことや予防や治療ができるようになったということにつながっていて、東京の人々が昔ほど苦しむことはなくなり、人々が安心してすむことができるようになったということが学べました。この勉強で、自分も努力して、たくさんの人を助けたいなと思いました。

ぼくは、時には自分のためだけではなく、人のためにがんばることの大切さを北里柴三郎から学びました。

学習して北里柴三郎の功績をまとめた後、現在の私たちの生活とのつながりについて考えることで、北里柴三郎の働きの偉大さを改めて認識すると共に、自分も北里柴三郎のように「人の役に立ちたい」「人のためにがんばりたい」という気持ちをもつことにもつながった。